

【質問内容】

1. スポーツ推進施策について

14番作野幸憲議員、質問席に移動願います。

[14番 作野幸憲君 質問席]

▼○議長（永田巳好君）▽ 作野議員の質問は一問一答方式、質問時間は50分間です。

作野幸憲議員。

▼○14番（作野幸憲君）▽ おはようございます。議席番号14番、作野幸憲でございます。早速一般質問をさせていただきます。

今回、私が質問させていただきますのは「スポーツ推進施策について」の1つでございます。よろしく願いいたします。

最近、暗いニュースが多い中、私に感動や勇気、元気を与えてくれるのはスポーツです。今年3月のWBC——ワールド・ベースボール・クラシックでの侍ジャパンの優勝、そして昨年のサッカーワールドカップの侍ブルーの活躍などは記憶に新しいものです。今年9月にラグビーワールドカップがフランスで開催されますので、今から日本代表の活躍に期待が膨らんでおります。

また、山陰では特に松江市で、バスケットBリーグの島根スサノオマジックの活躍は地域を巻き込んだ大きなうねりとなり、大いに盛り上がっていて地域活性化に大きく貢献しています。

このように、スポーツには子どものみならず、私たちに夢と希望を与え、感動や勇気、元気をもたらしてくれる大きな力があります。私も歳を取ったせいかテレビの前で感極まって泣くことも多くなりました。やはり、そこには隠された様々なドラマが存在するからだと私は思っております。

私自身も若い頃からスポーツをこよなく愛し、いろいろなスポーツを楽しんでまいりました。今でも現役として続けているのがマラソンと駅伝、そしてソフトボールです。

今年は私にとっては記念の年でもあります。それは、健康維持と増進のために始めたランニングが今年で20年目を迎えたからです。今でも週に1度程度

は約1時間ほど走り、すがすがしい素晴らしいよい汗をかいております。振り返ってみて、自分でもよく続けているなあと思っております。

また、ソフトボールは10年ほど前に地元のチームから誘いを受け、週末の練習にはできる範囲で参加し、少し厳しい練習と楽しい時間をチームメイトと過ごしております。そのかいもあってか、60歳以上の国体とも言える全国健康福祉祭、いわゆる「ねんりんピック」に令和元年と昨年、島根県代表として出場し全国の方と競い、そして交流をしまりました。

マラソンにしてもソフトボールにしても、長く続けているのは、やはりモチベーションが維持できているからだと思います。ランニングは、当初、健康の維持増進が目標でしたが、それでは続かないと思いマラソン大会に出場することにしました。

ちょうどその頃、なかうみマラソンが始まりました。毎年、なかうみマラソンで自己記録を更新することに目標が変わり、それからハーフマラソン、今ではフルマラソンを走るようになっていきます。ソフトボールでも、チームメイトのみんなと全国大会など大きな大会に出場したいとの思いがあり、みんなで頑張っているのかなあと思っております。

今後は、私は競技スポーツから生涯スポーツへとうまく移行し、いつまでも元気な高齢者でいれたら最高だと思っております。私は、スポーツのおかげで健康状態もすこぶる良好ですし、ストレス解消にもなっております。今や生活の一部となっていて、スポーツはなくてはならない存在となっています。

それでは、これから質問に移らせていただきたいと思います。

実は、11年前の6月議会で、「健康とスポーツ」、そして「教育とスポーツ」について質問をしております。そのときの答弁を今回読み返してみて、この10年で安来市のスポーツがどれだけ発展したかと考えますと、あまり変わっていないというか、中には後退した部分もあるように感じております。

そこでまず、「**スポーツ推進の現状と課題について**」お尋ねをしたいと思います。

安来市には安来市スポーツ推進計画があり、現在は2期目で平成31年4月から令和6年3月までの5年間となっております。

基本理念、目指す姿には「どこでも、だれでも、いつまでもスポーツの「楽

しさ」「喜び」を実感できるまち「やすぎ」」となっています。

基本方針は、「ライフステージに応じたスポーツ活動の推進」、「安来市のスポーツ文化を支える環境の整備」、「夢と感動を与える競技スポーツの推進」、そして「スポーツ活動による交流・連携の推進」の4つがあります。

安来市の第2期スポーツ推進計画は今年度が最終年になりますが、計画の達成状況はどのようになっておりますでしょうか。

▼○議長（永田巳好君）▽ 池上政策推進部次長。

▼○政策推進部次長（池上考順君）▽ お答えします。

第2期安来市スポーツ推進計画は、国が策定しております地方スポーツ推進計画の規定の基づき、令和元年度から5か年を計画期間として策定しております。

計画の達成状況につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により計画推進に係る多くの事業実施が困難な状況でありました。そうした中で、施設整備については、広瀬中央公園総合体育館耐震改修工事や安来運動公園陸上競技場改修工事など、計画どおり達成していると考えております。

ソフト面については、スポーツ大会や各種研修会などについて、状況により開催できていないものもございます。

▼○議長（永田巳好君）▽ 作野幸憲議員。

▼○14番（作野幸憲君）▽ それでは、第2期推進計画の検証は実施しておりますでしょうか。また、現状から見えている課題は何でしょうか。

▼○議長（永田巳好君）▽ 池上政策推進部次長。

▼○政策推進部次長（池上考順君）▽ この計画につきましては、スポーツ推進審議会において各年度、進捗状況等の検証及び評価を行い、その結果をそれぞれの取組に反映させております。当該計画期間の最終年に当たる今年度は、同審議会において期間内の総合的な検証等を丁寧に行うこととしております。

現時点での全体的な課題としては各競技の指導者不足、少子化により団体スポーツのチーム編成が困難になってきていること、施設の老朽化等が上げられます。

▼○議長（永田巳好君）▽ 作野幸憲議員。

▼○14番（作野幸憲君）▽ スポーツは文化でもあります。今では、「する」、「見る」、「支える」など様々な活動があります。そして、ライフステージに合わせたスポーツをすることは健康増進に寄与し、健康で活力に満ちた

長寿社会につながると私は考えます。

そこで、基本方針にある「ライフステージに応じたスポーツ活動の推進について」お尋ねをいたします。

まずは、子どものスポーツ活動及び体力向上の推進についてお聞きしたいと思います。

安来市でも、毎年小・中学校でスポーツテストを実施しておられると思います。国が公表している小学校5年生と中学校2年生の過去5年の結果と、それに基づく今後の学校の取組についてお答えをお願いいたします。

▼○議長（永田巳好君）▽ 秦教育長。

▼○教育長（秦 誠司君）▽ お答えいたします。

毎年、児童・生徒の体力、運動能力の状況を把握、分析するために実施しております全国体力・運動能力調査、いわゆるスポーツテストにおきましては、握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、シャトルラン、持久走——これは中学生のみであります、50メートル走、立ち幅跳び、ボール投げの8から9種目について調査が行われます。

議員おっしゃいますように、文部科学省が公表しております小学5年生と中学2年生の結果から、令和4年度の安来市と県や全国の平均を比較いたしますと、小学5年生女子と中学校2年男子は県全国平均を上回り、小学5年生男子と中学校2年生女子はおおむね平均並みとなっております。ただ、安来市の平成30年度と令和4年度の結果を比較いたしますと、小学校5年生女子の握力と男女の長座体前屈は向上しておりますが、それ以外の種目は低下しています。

この結果を踏まえ、各学校におきましては、各学校の課題に応じて体力向上推進計画を作成し体育の授業改善を進め、取組の重点化を図っております。また、小学校では全校マラソン大会や縄跳び集会など体育的な学校行事や集会を行ったり、中学校では地域の指導者と協力して部活動指導をより効果的なものにしていくなど、体育の授業の充実を図るとともに、友達と一緒に様々な運動ができる機会を提供し、体力の向上を図っているところでございます。

▼○議長（永田巳好君）▽ 作野幸憲議員。

▼○14番（作野幸憲君）▽ 国は今年度から部活動の地域移行改革推進期間としております。

そこで、中学校運動部の外部指導者の動向や課題についてはどのようになっていますでしょうか。

▼○議長（永田巳好君）▽ 秦教育長。

▼○教育長（秦 誠司君）▽ 市内中学校におきましては、顧問教員に競技経験や指導経験がない場合や、より専門的な技術指導を希望する学校には地域指導者を派遣しております。

ここ5年間の運動部活動における地域指導者数の推移を見てみますと、令和元年度が9名、令和2年度が11名、令和3年度が15名、令和4年度が19名となっております。少しずつではありますが年々協力いただける指導者の方が増えてきております。今年度は市内で19名の派遣を行っており、このうち運動部活動においては17部活動に18名を派遣しております。

ただ、派遣回数や指導時間に制限があるという課題や競技によっては人材の確保に苦勞しているという課題もあります。今後、地域のスポーツ団体等とも連携を図りながら、指導に関わってくださる地域人材の確保の方策を検討したり、派遣回数や指導時間について必要に応じまして県や国へ要望していくなど、生徒にとって望ましい部活動の環境の提供に努めてまいります。

▼○議長（永田巳好君）▽ 作野幸憲議員。

▼○14番（作野幸憲君）▽ 安来市は平成30年度から地域指導者を依頼していますが、人数としては思うほど増えていないのかなと思っております。安来市も中学校の部活動地域指導者活用支援事業を踏まえ、地域移行について今後もしっかりと検討して進めていただきたいと思いますと思っております。

次に、スポーツ少年団をはじめとする地域スポーツ活動の現状はどのようになっていますでしょうか。

▼○議長（永田巳好君）▽ 池上政策推進部次長。

▼○政策推進部次長（池上考順君）▽ スポーツ少年団等の活動状況につきましては、令和5年4月1日現在、市スポーツ協会に登録されている軟式野球、バレーボールなどのスポーツ少年団は33団体あり、登録人数は団員と指導者等を合わせ827人です。その他、陸上や水泳など成人の加盟競技種目は23種、地区体育協会は市内17地区において地域でのスポーツイベント等を行っていただいております。

また、スポーツ推進委員38人が、地域のスポーツ推進や指導のために活動していただいております。

▼○議長（永田巳好君）▽ 作野幸憲議員。

▼○14番（作野幸憲君）▽ また、成人へのスポーツ機会の提供も課題の一つと考えております。

近年、全国ではスポーツジム、フィットネスジムが急増しています。市外でも24時間営業の新しいジムを見かけるようになりました。

そこで、市内にある市民体育館と夢ランドのスポーツジム、トレーニングルームの利用者人数と世代の傾向はどのようになっておりますでしょうか。

▼○議長（永田巳好君）▽ 池上政策推進部次長。

▼○政策推進部次長（池上考順君）▽ まず、市民体育館ですけれども、スポーツジム利用者数については平成30年度は延べ1万4,300人、令和4年度については延べ1万4,925人でした。

利用者は、高校生から高齢者まで幅広い年齢層に利用していただいております。特に20代から40代の男性の利用が多い傾向でございます。

▼○議長（永田巳好君）▽ 吉野健康福祉部長。

▼○健康福祉部長（吉野文康君）▽ 私のほうからは、夢ランドしらさぎのトレーニングルームの利用人数についてお答えいたします。

平成30年度では延べ3,709人でしたが、令和4年度では新型コロナの影響もあり延べ513人でした。

年齢層については60代、70代の方が中心となっております。

▼○議長（永田巳好君）▽ 作野幸憲議員。

▼○14番（作野幸憲君）▽ 市民体育館のほうはコロナ前より伸びておりますが、夢ランドのほうはコロナ前から大幅に減っているということです。

夢ランドの利用者が少ない理由は何でしょうか。また、増やすための施策をどのように考えておられますでしょうか。

▼○議長（永田巳好君）▽ 吉野健康福祉部長。

▼○健康福祉部長（吉野文康君）▽ 利用が少ない理由としまして、魅力的なトレーニング機器が少ないことや専任のトレーナーが不在であることなどが考えられます。

今後については、夢ランドしらさぎ全体の利用者を増やす施策を考える必要があると認識しており、指定管理者である夢ランドしらさぎ振興事業団と協議をしながら、トレーニングルームの在り方も含め施設内容を再検討し、長く市民の方々に利用していただける施設となるよう取り組んでまいります。

▼○議長（永田巳好君）▽ 作野幸憲議員。

▼○14番（作野幸憲君）▽ 答弁では魅力ある器具が少ないということや専門のトレーナーがいないことということがありました。

私は、夢ランドの立地や世代の傾向から高齢者にもっと使ってもらえるようなトレーニングルームにしてはどうでしょうかと思っております。入浴は割引がありますが、トレーニングルームにはありません。市民体育館の利用料は1回310円なのに、夢ランドは510円です。11年前も同じ質問をしましたが、全く変わっていません。私は利用料も含め見直す時期が来ているのかなと思っております。

そして、高齢者の体力づくりの推進も重要です。全体的にもそうですが、スポーツをしている人としていない人の二極化が今発生していると思っております。していない人の取っかかりとしては、身近なところでできる運動としてウォーキングが最適と考えます。

各地域では、年に1度や2度はウォーキング大会を開催されておられますが、これを機に継続していけるような取組にしなければ、安来市全体の健康増進や医療費削減などにはつながらないと思います。

ウォーキングをもっと推進する施策は何か考えておられますでしょうか。1人で歩く場合は、多分長続きしない人が多いのかなあと思いますので、例えば地域の仲間や自治会単位のウォーキングクラブやグループなどでそういうやり方を推進し、仲間と一緒に継続して健康増進ができるような施策はどうでしょうか。

▼○議長（永田巳好君）▽ 吉野健康福祉部長。

▼○健康福祉部長（吉野文康君）▽ 市内24地区には健康づくりを推進する組織があり、毎年計画を立てて、ウォーキング大会をはじめとした活動を実施しております。

運動を継続的に行うことで、生活習慣病予防やフレイル予防などに効果的です。ので、より多くの方が参加できるよう既存のウォーキングコースの周知をしてまいります。

また、地域や参加される方の状況に合わせ、運動に継続して取り組めるよう地区組織と連携を図ってまいります。

▼○議長（永田巳好君）▽ 作野幸憲議員。

▼○14番（作野幸憲君）▽ 地区のウォーキングコースについても、以前、

いい取組だから市としても応援したいということがありましたが、これも全く進んでおりません。

それとは別に、昨年末から能義地区では若い方を中心にランニングクラブを結成し、月に2度、私もできるところで参加をして一緒に走っています。まだ登録人数は7名ほどですが、少ないときは2人で走ったりすることもあります。情報交換の場であり世代間交流の場にもなっています。実は、この取組には地区体協と交流センターから支援を受けて連携してやっております。このような形が、一つのモデルになるのではないかと私は考えます。

そして、高齢者の生涯スポーツの位置づけとしては健康づくりもありますが、社交場としての意味合い、役割も大きいと思いますので、それも含めて検討をいただきたいと思います。

次に、「**競技スポーツの推進について**」お尋ねします。

令和12年には、島根県で国民スポーツ大会、障害者スポーツ大会が開催されます。各競技団体では選手強化と審判員の確保が叫ばれています。県も国スポ、全スポに向けて新たに部署をつくり、競技力向上などに力を入れ始めています。市としては、まず会場や練習施設の整備が優先して進められると思いますが、国スポ、全スポに向けた計画と方針はどのようになっていますでしょうか。

▼○議長（永田巳好君）▽ 池上政策推進部次長。

▼○政策推進部次長（池上考順君）▽ 令和12年に中国地区において国スポ、全スポが開催されます。

島根かみあり国民スポーツ大会、全国障害者スポーツ大会は、安来市では国民スポーツ大会のフェンシング、テニス、6人制バレーボールの3競技の開催が決定しております。

今後は、国民体育大会開催基準要項等に基づき、県や関係機関と準備を進め、会場などが決定し次第、必要に応じて施設整備等を計画的に行ってまいります。

▼○議長（永田巳好君）▽ 作野幸憲議員。

▼○14番（作野幸憲君）▽ 安来市でも、今年度新規事業として広瀬中央公園テニスコート改修工事や国スポインターハイ準備事業を始めていただきましたので、しっかりと事前準備を進めていただきたいと思っております。

また、選手強化と審判員の確保は、県と島根県スポーツ協会が中心となって各競技団体で強化方針を示され、各市町村支部と協力して進められるようです。私も陸上競技協会の役員でございますので、これから様々な部分で協力をしてまいりたいと考えております。

特に、どの競技でも新規の審判員の確保が喫緊の課題の一つとなっております。新規で公認審判資格を取るにはお金もかかりますので、安来市においては市スポーツ協会にスポーツ指導者育成基金があり、上限1万円で公認資格試験の一部を負担していただくことができますので、ぜひともこういうものを利用していただければなと思っております。

次に、スポーツ全国大会等出場激励金制度についてお尋ねをいたします。

安来市には、全国大会や国際大会に出場するに当たり、申請すると激励金が交付される制度があります。そこで、安来市から競技スポーツで全国大会や国際大会に出場され交付を受けられたコロナ前の平成30年と、令和4年の交付実績と交付金額はどのようになっていますでしょうか。また、同じくねんりんピックに出場された方もお願いいたします。

▼○議長（永田巳好君）▽ 池上政策推進部次長。

▼○政策推進部次長（池上考順君）▽ 安来市スポーツ全国大会等出場激励金については、スポーツ競技の全国大会、国際大会等に出場される際、申請のあった場合に交付するものです。

交付額は、全国大会は個人に1万円、団体に10万円、国際大会は個人に3万円、団体に30万円を限度としております。

交付実績につきましては、平成30年度は個人は全国大会35人に35万円、国際大会6人に18万円、団体は全国大会8団体に52万円、令和4年度につきましては個人は全国大会66人に66万円、国際大会1人3万円、団体は全国大会2団体に20万円を交付しております。

▼○議長（永田巳好君）▽ 吉野健康福祉部長。

▼○健康福祉部長（吉野文康君）▽ ねんりんピックにつきましては、平成30年度には団体では出場はなく、個人では美術展に1名の出展と、テニスに1名出場されました。令和4年度には団体ではソフトボールに1チーム、個人ではソフトテニスに1名が出場されております。

健康福祉祭参加激励金につきましては、団体へは1団体5万円、個人へは1人5,000円を交付しております。

▼○議長（永田巳好君）▽ 作野幸憲議員。

▼○14番（作野幸憲君）▽ 今、団体と個人の話を書きましたが、団体はスポーツ競技によって大会に出る登録人数というのがありますので、多い競技だと18人とか登録できたりします。そういうことも今後は加味していただけるとありがたいと思っております。

スポーツは活躍すればするほどお金がかかりますので、今後交付金額を上げるお考えはありませんでしょうか。

▼○議長（永田巳好君）▽ 池上政策推進部次長。

▼○政策推進部次長（池上考順君）▽ 激励金の引上げにつきましては現時点では考えておりませんが、交付対象大会や対象者など、他市町村の状況等を含め調査してまいりたいと考えております。

▼○議長（永田巳好君）▽ 作野幸憲議員。

▼○14番（作野幸憲君）▽ 先ほど申し上げましたように調査、検討していただけるということですので、登録人数なんかも考えていただけるとありがたいと思っております。

次に、「スポーツを通じた健康増進について」お尋ねいたします。

平成25年の6月議会では活動量計——少し性能のいい万歩計のことで、これを使った健康管理システム、そして平成27年の3月議会では健康ポイント制度、平成31年3月議会ではICT技術を使った健康増進施策など、私は多くの場面で先進的な健康増進施策について質問しております。

その都度の答弁は検討しますという答弁でした。しかしながら、全く進んでいないのが現状です。

これまでに、どんな検討をされてこられましたでしょうか。また、進まなかった理由は何だったのでしょうか、お願いいたします。

▼○議長（永田巳好君）▽ 吉野健康福祉部長。

▼○健康福祉部長（吉野文康君）▽ 以前より、作野議員からスマートフォンを活用した先進的な健康増進施策などのご提案をいただきましたが、健康増進施策については健診受診率の向上が優先課題であったため、この点に重点を置き、取組を行ってまいりました。

具体的には、AIを活用した受診勧奨の取組など、先進的な事業に取り組んでまいったところでございます。

▼○議長（永田巳好君）▽ 作野幸憲議員。

▼○14番（作野幸憲君）▽ 安来市では自治体DXも進めていただいております。その自治体DXでも、スマートフォンなどからのメッセージングサービスでの健康増進に向けた情報発信の強化はありますが、スポーツ活動や運動を通しての健康増進を図るような取組はありません。

今後、健康ポイント制度——健康マイレージとも言われておりますが、そのような健康増進施策は考えておられませんか。

▼○議長（永田巳好君）▽ 吉野健康福祉部長。

▼○健康福祉部長（吉野文康君）▽ 幅広い年代の方々がスマートフォンを保有されるようになったことや、新型コロナウイルス感染症も5類になったことなどを受け、今後は庁内関係部署や企業との連携を図りながら、運動も含めデジタルを活用した健康増進施策を進めていくよう考えてまいります。

▼○議長（永田巳好君）▽ 作野幸憲議員。

▼○14番（作野幸憲君）▽ 安来市DX推進計画にも健康増進、医療・福祉も含めてやっていくということが載っておりますので、そういう中でスポーツ、運動のところも積極的に取り入れていただきたいと思っております。

先ほども申し上げましたように、健康ポイント制度——今では健康マイレージと言う場合が多いですが、健診や、ウォーキングの距離などに応じてポイントを付与し、何らかのご褒美がもらえることによってモチベーションを維持して長く続けていく健康増進の取組は、全国各地で近年盛んに行われています。

私は、先ほども言いましたが、市内のスポーツジムの利用やスポーツイベントなどの参加もポイントにさせていただいて、長く続けていただくような政策をお願いできたらと思います。

なかなか担当部署だけでは全てをやるというのはもともと不可能です。今や民間事業者がいろいろなノウハウや技術を持っておりますので、そういうものと連携してそういうものを使えば、割とたやすくできるんじゃないかなと思っておりますので、そういう民間事業者等との連携も、今もいろいろなところでやっておられますが、そういうことも進めていただければと思います。

次に、「スポーツ活動による交流、連携の推進について」お尋ねをいたします。

なかうみマラソン全国大会がなくなりまして大規模なスポーツイベントによる交流はなくなったわけですが、国のスポーツ基本計画でも今後リモートなどを使った双方向間の交流とかを推進していく方向が打ち出されております。

今後のスポーツ交流の在り方についてはどのように考えておられますでしょうか。

▼○議長（永田巳好君）▽ 池上政策推進部次長。

▼○政策推進部次長（池上考順君）▽ スポーツを通じて人々が交流を深めていくことは、地域や世代間の新たな連携を促進することや、多くの選手や観客が一体となって感動や興奮を共有できることなど、より豊かで活力ある地域社会の実現につながるものと考えております。

今後は、リモートの活用により、eスポーツの推進やプロスポーツ選手を講師とした講演会の開催や技術指導などの充実を図ることも考えられます。

市では、今年の11月にeスポーツの理解や普及を目的とするイベントを総合文化ホールアルテピアで開催する予定です。幅広い年代の方に来場してもらい、eスポーツを体験していただきたいと考えております。

▼○議長（永田巳好君）▽ 作野幸憲議員。

▼○14番（作野幸憲君）▽ 幅広い世代ということがありましたが、高齢者もeスポーツというのは認知症とかいろいろなことに今後役立っていくのかなあと考えておりますので、そのあたりもしっかり宣伝していただいて呼びかけていただければと思っております。

大規模とは言えませんが、私も関わっておる「やすぎランニングフェスティバル2023」も今年第2回大会として、10月22日に中海ふれあい公園周辺で、参加地域を限定せず500人規模で開催をいたします。

同じくふれあい公園では、11月4日と5日にソフトボールの西日本ハイシニアの大会が初めて安来市で開催され、20チーム近くの参加が現在予定されているなど全国各地から選手を迎えることになります。

また、安来市のスポーツ文化の一つでもあり、夏の風物詩、安来市親善野球大会——盆野球ですね、これも4年ぶりに開催されるということです。再開されるということは、中学生時代からずっと参加している私にとっては大変待ち望んだ、大変うれしいニュースでもあります。

それでは最後に、「第3期安来市スポーツ推進計画について」お尋ねをしたいと思います。

ワールド・ベースボール・クラシックなどによりスポーツがさらに注目され盛り上がっていますし、先ほどもあったようにeスポーツなど新しい形のスポーツも出てきています。また、インターハイ、国スポ、全スポを控え、市とし

ても県や様々な団体、またいきいき健康課や教育委員会などとの連携も、より深めていくことが重要になってくると考えます。

このようなことも踏まえて、第3期スポーツ推進計画はどのようなものにされますでしょうか、お願いいたします。

▼○議長（永田巳好君）▽ 池上政策推進部次長。

▼○政策推進部次長（池上考順君）▽ 第3期安来市スポーツ推進計画については、市を取り巻く状況や2期計画の検証結果を踏まえ、全ての年齢層を対象とし、それぞれのライフステージに応じたスポーツ活動を推進します。また、スポーツを長く続けることができる仕組みづくりや、生涯スポーツや障がい者スポーツの推進、民間事業者との連携によるスポーツ推進も重要だと考えております。さらには、スポーツにおけるDXの活用も積極的に取り入れ、リモートで楽しめるプログラムなど新たなスポーツとの関わりを検討したいと考えております。

▼○議長（永田巳好君）▽ 作野幸憲議員。

▼○14番（作野幸憲君）▽ 安来市はバレーボールやフェンシング、ソフトテニスなど今まで実績があり、伝統文化のあるスポーツがたくさんあります。ポテンシャルも私は高いと思っております。

国の第3期スポーツ基本計画の中に、スポーツによる地方創生、まちづくりがあり、スポーツによる地域活性化・まちづくりコンテンツ創出等総合推進事業などがあり、アウトドアスポーツや武道などによる地域資源を活用した観光に結びつける事例やスポーツツーリズムなども紹介されております。

安来市でも知恵を絞れば、スポーツを地域活性化の起爆剤にできると私は思いますし、すべきだと考えますが、市はどのようなお考えでしょうか。

▼○議長（永田巳好君）▽ 池上政策推進部次長。

▼○政策推進部次長（池上考順君）▽ 安来市では全国大会などで功績を上げることのできるスポーツが多く存在しており、地域スポーツの活性化につながっているものと考えております。中でも、フェンシングは世界に通用する多くの選手を育成しております。令和7年度では、広島県を主会場に中国ブロックで全国高等学校総合体育大会が開催され、安来市はフェンシングの競技会場となることが決定しております。期間中は、多くの方にご来場いただき、大会を盛り上げ、地域活性化につながるよう県や関係機関等と協議しながら準備を進めてまいりたいと考えております。

▼○議長（永田巳好君）▽ 作野幸憲議員。

▼○14番（作野幸憲君）▽ 私は少子化・高齢化が進む中、これからも競技スポーツを生涯スポーツにどうつなげていくかがとても大事になると思っています。

第2期安来市スポーツ推進計画の基本理念、目指す姿で「どこでも、だれでも、いつまでもスポーツの「楽しさ」「喜び」を実感できるまち「やすぎ」とありますが、私は生涯スポーツをととても強く意識した言葉ではないかなと思っています。

インターハイや国スポ、全スポの開催が迫っている今こそ、安来市の地域活性化の起爆剤にできる大きなチャンスと考えます。まずは、大会に向け、しっかりとした体制で準備をしていただきたいと思っています。

私が、今安来市のスポーツで一番期待する夢は市内の高校が甲子園に出場することで、近い将来かなえられると信じて応援していきたいと思います。

私も、このたび安来市の推進に当たって重責を担う役職を受けましたので、微力ながらもこれからも一生懸命安来市のスポーツ推進をバックアップし貢献していきたいと考えています。

以上で私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

▼○議長（永田巳好君）▽ 以上で14番作野幸憲議員の質問を終わります。